



横浜陶芸友の会だより

第 185 号
令和 5 年
5 月 26 日発行

総会の報告

総務部より

5月13日(土) 15時30分から
杉田地区センターにおいて 会長・副会長・
各役員10名の出席で行われました。
出席人数が少なかったため、議長選出では
高橋会長が議長を務めることになりました。
また、記録は広報が行いました。

令和4年度 各部の活動報告

- ①総務部 「友の会だより」の発送
○池見部長が体調不良のため高橋光男が
代行しました。
- ②事業部 「作品展」の報告(参照第184号)
- ③専修部 「秋期焼成会」の報告(第183号)
- ④広報部 「友の会だより」3回発行
- 点検を会長・副会長・部長にお願いしました。
- ⑤会計部 令和4年度の決算・監査報告
○年度末の役員会(2/19)の出席者全員
で監査を行い後日、吉村さんの監査印を
いただきました。

令和5年度 各部の活動予定

- ①事業部 「第44回作品展」の会場

- 7月に「かなつくホール」を申し込む
☆特設コーナー課題「どんぶり」です
- ②専修部 秋期焼成会(詳細は次号会報)
- 今年は井上部長の窯で行う予定です
- ③広報部 年3回「友の会だより」発行
- ④会計部 令和5年度予算(別紙参照)
- ⑤総務部 「友の会だより」の発送・名簿作成

《質疑応答》

- ・会員数の減少に伴い今後の会の在り方
・今後を見据えた予算の在り方
- ・「作品展」の出展料について
- ・繰越金残高の使用について
- ・会計の簡素化について
- ・「総会」の議事進行について
- など、議論が行われました。

《その他》

①役員の退任と補充について

会長

・高橋光男(退任) ↓鍋島弘義(新任)

総務部長

・池見千枝子(退任) ↓高橋光男(新任)

事業部長

・鍋島弘義(退任) ↓吉川 勝(新任)

会計監査

・吉村希世子(退任)

・その他の役員は継続

退会役員

(総務部) 池見千枝子 高橋尚子

(事業部) 徳植美和枝 窪田由紀子

②友の会「組織表」の変更について

- ・名誉顧問の名称を表から除外する。
- ・会計監査は置かず年度最後の役員会出席者
全員で監査を行う。
- ・活動する部を「総務部」「事業部」「専修部」
の三つにし、活動で応援が欲しい時には動
ける人が入る。

- ・総務部は会の「総まとめ」を行う。
- ・会長・副会長・会計・広報(HP含む)も
ここに所属する。

新組織表

顧問	会長	副会長
総務部	事業部	専修部

③その他

・「質疑応答」で出てきた問題については、
「役員会」の中で話し合いながら進めていく。
以上、議題は拍手を持って承認されました。

次回「役員会」の予定

7月22日(土) 15時

「会長退任あいさつ」

高橋 光男

去る5月13日の定例総会
を持ちまして、会長を退任
させていただきました。

平成25年5月から会員

皆様方のお力添えを頂き

ながら『作陶活動を通じて会員の親睦と併せ、
生涯活動の一環として、陶芸の鑑賞や研究に
ついて便宜を図ること』を目的とした諸先輩
が築き上げてこられた「横浜陶芸友の会」の
活動を維持、発展の一助となればとの思いで
何とか務めることができました。

予想だにできなかった「新型コロナ」の影
響は計り知れず、イベントの中止、及びイベ
ント開催形態制約等の憂き目にあいながらも
解除後には会員皆様の協力によりイベントの
再開できたことに感謝申し上げます。
今後は総務部で活動いたしますので、
よろしくお願いいたします。



第 43 回「作品展」
会長出展作品の「テーマ」

「横浜陶芸友の会」会長として

鍋島 弘義

この度、総会で選出された
鍋島弘義です。

陶芸との出会いは私が

養護学校に赴任した時、松崎

さんから本牧の高木先生の

陶芸教室を紹介され、半年「手捻りコース」、

次の年「ろくろコース」一年間、清水さんと

通った時からです。

その当時は卒業すると自動的に「友の会」

に入るようになっていました。

「友の会」では事業部に所属し「窯場見学会」

や「作品展」「日野の野焼き」などのイベント

で職種の違う方々とたくさん知り合うことが

出来ました。

とても楽しく過ごしてきましたが、振り返

ると回りには昔の事を知る人が殆どいなくな

り、最盛期には300人からいた会員も30人足

らずになってしまいました。

今までお世話になったこの会の行く末を

最後まで見届けるのも、残った者の務めか

な?とも思っています。

陶芸の作る楽しみ見る楽しみを愛する会員

がいる限り、また、自分の体力のある限り、

微力ながら頑張ります。

会長を受けた以上は自分も楽しめるよう、

皆様と知恵を出し合い陶芸談義が日々できる

ようこの会を盛り上げていきましよう。

「秋期焼成会予定」

専修部

コロナも一段落し日常の生活を取り戻しつ
つありますが、会員の皆様いかがお過ごしで
すか?今年に一度の焼成会も残念ながら
年々参加者が減少しています。

昨年は参加者9名、作品重量12kg程でした。
大きな技能文化会館の窯は必要なくなり、
経費削減・省力化の考えで、

今年専修部長 井上宅のガス窯にて

焼成することとなりました。

釉薬は

- ①唐津ワラ白 ②トルコマット
 - ③そば釉 ④青織部
 - ⑤飴釉
 - ⑥斑唐津 ⑦黄瀬戸
 - ⑧黒天目
 - ⑨朱赤 ⑩ルリマット
 - ⑪オリジナルラスタール釉
 - ⑫青白交趾 ⑬織部
 - ⑭木灰透明
 - ⑮ヒワ貫入
- そして専修部在庫の10種類の釉薬を加え
25種類以上の釉薬が体験できます。

会場が狭くなりますので、ご不便をお掛け
するとは思いますが是非ご参加くださるよう
お願いいたします。

詳細については次号にてお知らせ致します
が **9月3日受付** を予定しています。

横 浜 陶 芸 友 の 会
2022年度決算書・2023年度予算書

「事業部より」

令和5年度より、事業部部长が「鍋島弘義」から「吉川 勝」に変わりました。

「第44回作品展」のお知らせです。

会場の決定は、次回の会報に掲載されます。

会場予定

「かなつくホール」3階

・7月の抽選会で決定します。

期日予定

・令和6年1月

・火曜日から日曜日（6日間）

特設コーナー課題

「どんぶり」です。

大小問わず、過去の作品でもかまいません。自慢の一品をお持ちください。

特設コーナーに展示します。

出展料の変更

「作品展」の反省の中で「出展料」についての議論が行われました。

今までは一区画30cmで2千円

今年度 一区画90cmで5千円 に変更

・大半の方が 3区画を希望している。

・その方たちは、実質千円の値下げ。

・しかし、2区画の方には千円の値上げ。

・一区画90cm は机半分のスペースで

会場全体でゆったり展示ができる。

・赤字の負担は繰越金から出す。

などの意見の末、この金額になりました。

第43回【専修部 焼成コーナー】



黄瀬戸釉+タンパン



織部釉

OP 釉とは
オパール釉に井上
さんオリジナルの
P 釉を 2 割混ぜ合
わせた釉薬



OP 釉



横から見たシーサー



正面から見たシーサー

「43回の作品」
松崎紀一

「シーサー」： 残りかす混成土(赤津、信楽、越前など)
釉薬は： 弁柄で下塗りした上に黄瀬戸釉 電気窯の還元焼成
(作者の呟き)： 今まで狛犬を作ってきましたが、いつしか 70 歳を過ぎ、シーサーを意識して作品作りに挑戦しました。もともと私の狛犬は、沖縄のシーサーが原点にあるので作っている時は楽しかったです。

「第43回の作品」
鈴木 和子



①「扁壺金継ぎ」の絵は、「トラフグ」です。「おいしく見せよう。」と言う食べる意欲だけで作りました。」とのお話でした。ちょうど背中の所が白くなったのはチョット荒い土を被せた所にうまく灰が掛かったそうです。他にもビードロや紫(ピンク)も出て色目も良くきれいな作品になりました。



①「扁壺金継ぎ」 信楽荒目 穴窯焼成 自然釉
②「花器」 備前 穴窯焼成 自然釉
③「角皿」 御影白 電気窯
④「手付片口鉢」 信楽赤 穴窯焼成 自然釉
⑤「ぐい呑み」(5個) 信楽赤 穴窯焼成 自然釉



③「角皿」は、専修部で焼いた物で、「青白交趾釉薬」を掛けたものです。下に弁柄を少し塗ってあります。ビードロもきれいで品の良い色に出来上がりました。



②「花器」は、備前の土で境目まで灰に埋もれていました。



④⑤は、私の大好きなお酒を入れるセットです。片口のお酒がまわらないための口の作りは、何個も作っている内に、なんとなく作れるようになります。このぐい呑みには窯から何か落ちてビードロになった。これは面白いなあ。と、思っています。



三つ足コブレット

糠白釉：某作家さんの作品を YouTube で見つけ作ってみました。
・粘土が柔らかいうちに削るので 工具に力を入れすぎると変形してしまう。
・外側が傾斜しているのです寸法取りを誤ると奥底近くで破けてしまう。
・脚部の薄いものは焼成時に変形してしまったので一部を逆さまにして焼いてみました。苦勞の多い試行錯誤の作品となりました。

「第43回の作品」 吉川 勝
・テーマは「至福のコーヒータイム」を
できるかできないかは別にして一年に一個は今までと違うものを出そうと思ってやっています。ユーチューブを見て「これ面白いじゃん」と、思ったので作ってみました。
この作品は、やはり脚を作る過程に一番時間を費やしました。
10個作って3個しか、作れませんでした。

陶陶さん

第 107 号

あかほし



「鎬カップ」 糠白釉・鬼板
 <球状カンナで削り>



「鎬カップ」 糠白釉・黒化粧土・透明釉
 糠白釉・鬼板 <平カンナで削り>



<高台の削り>



・トルコ紺青釉
 ・糠白釉・黒化粧土・透明釉
 外側を「く」の字形にする為テレホンカードを加工し内側にあてがってみた

吉川 勝 (前ページからの続き)
 テーマは「至福のコーヒータイム...」を

【編集後記】

今回の「総会」で役員の変更がありました。会長が高橋光男さんから鍋島弘義に。総務部長が池見千枝子さんから高橋光男さんに。事業部長が鍋島弘義から吉川勝さんに。会計監査も最後の役員会で行うことに。そして活動も総務・専修・事業の三部門に。総務が会の「総まとめ」になりました。会員数減少に伴い、みんなで出来ない所はカバーしながらやるしかありませんね。わたしも、微力ながら、広報・事業部と三足の草鞋を履くことになりました。

・また、会員の高齢化も進み、体のあちこちの具合が悪い。との話が聞こえてきます。健康に留意しながら、これからも趣味の「陶芸」を楽しみましょう。

鍋島弘義

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
 第 185 号

(令和 5 年 5 月 26 日発行)
 発行人 横浜陶芸友の会